

だい きさいわいくみんかいぎしんぎてーまにかんするいいんからのいけん
第5期幸区区民会議審議テーマに関する委員からの意見

分類	ちいき かだい かいけつ む きょうぎ じこう 地域の課題として、解決に向けて協議したい事項		ちいき かだい かいけつ あいであ 地域の課題を解決するためのアイデアや ほかにちいきすてとく 他の地域で既に取り組んでいる事例		いいんめい 委員名	
	項目	内容				
交通安全対策の推進	1	自転車利用者が多く、道が狭く、歩道を走らね、人とぶつかり危ない。	●自転車専用道路を設置し歩行者と接触をさける。例として栄通りはバスが通り、両方向自動車が行くが自転車が走りづらい。	●公園への自転車の通行規制。例として南河原公園を、国道1号線を渡り駅方向へ進み、公園の散歩者とぶつかる。	飯島 忠男	
	2	自転車のマナーの向上	●啓発活動の強化	●ラゾーナ川崎など大型商業施設にて自転車交通マナーのリーフレットや小冊子などの配布やクイズ形式の参加型イベントの開催、事故の映像を流し見せてもらうようなイベントで啓発を促す。	近藤 多恵	
	3		●法規改正などもあり、この課題は継続性を持って、他の団体と協調し、取り組む必要がある。			西野 恭一
	4		●自転車通勤者と歩行者の事故を防止する。特に、踏切横断時に、接触事故が多い。	●踏切を自転車で通行する人は、事故防止のため下車して渡るようにする。	佐藤 例蔵	
	5	自転車交通ルールの周知・徹底	●交通ルールを無視した自転車走行による危険の排除	●小、中、高校における自転車交通ルールの講習 ●町内会・自治会、老人会等における自転車交通ルールの講習 ●街頭における自転車交通ルールのチラシ配布 ●各種方法による自転車交通ルールの周知活動後 …街頭における指導実践(当初は無罰指導) …事前広報後の取締りの実施	佐々木 繁	
環境美化活動の推進	6	●狭い道路において自転車の車道右側通行が見受けられる。正面衝突や車両と接触の危険「ハラハラ」「ドキッ」が多く見受けられる。これを改善しないと死亡事故が増える。	●定期的に警察と連携し継続的な交通指導運動を行う。 ●地域の団体等に危険な道路を抽出してもらい、重点地域、一番良い解決方法を考える。		阿部 法弘	
	7	●小中学生の自転車運転の規則が行き届いていないため、年配者が危険な思いをしたという話をよく聞く。	●小中学生のための自転車安全運転の講習を警察が開いてほしい。		西本 マルトニア	
	8	●信号のない横断歩道で歩行者がいても自動車は無視して通っていく	●警察官による取締り強化 ●児童通路の監視員による指導		飯島 忠男	
	9	●狭い道幅に加えて、車両進入のための切り下げによる凹凸の多発により高齢者・身障者の歩行の危険性が高くベビーカー等の走行も困難になっている。	●委員の実査による実態把握 ●歩道の構造変更(セミフラット化)による切り下げ不要 ●電柱に近接するバス停の移動 ●電線の地中化推進		佐々木 繁	
環境美化活動の推進	10	●街路樹、植え込み、花壇等の手入れの間隔が長すぎて見た目が悪い。	●植え込み等の手入れは、シニアのボランティアを活用する。		大澤 義和	
	11	●路上喫煙禁止地区において、いまだ多くの喫煙者がいる。本来巡視員なり指導員の姿があつて然りだと思ふが、見かけたことはほとんどない。看板や路上に貼られたプレートが破損していたり、目立たなかつたりする。	●きちんと決めたことは守られるように、目立つ場所に目立つように看板を再設置するとともに、破損箇所は修繕復旧を行う。 ●定期的に路上喫煙及びポイ捨て禁止を呼び掛ける運動を行う。一時的では効果がありません。継続的に行う。		阿部 法弘	
	12	●ごみ置き場のごみが収集されず何時間も放置状態になっている。 ●自転車、オートバイ、家電製品の不法投棄	●ごみは10時までには収集する。または夜間に収集する。		大澤 義和	
	13	●収集箱が無いため、歩行者用道路にゴミ袋を置いていたが、一応ネットはかけても、カラスが生ゴミをあさって、袋を引き出し、生ゴミが散乱しているのをよく見かける。 美化環境のためにも、また衛生上にも問題がある。	●堅固で大きな収集箱を設置してもらいたい。		西本 マルトニア	
14	●樹木の枝下ろし、雑草の刈込	●道路公園センターで春秋2回剪定をするよう依頼要請		佐藤 例蔵		

分類	地域の課題として、解決に向けて協議したい事項		地域の課題を解決するためのアイデアや 他の地域で既に取り組んでいる事例	委員名
	項目	内容		
地域の 防犯力の 向上	15	●商店街などには防犯カメラがかなり設置されているが、住宅地にも設置することができないか。	●行政からの補助を強化する。	おおさわ よしかず 大澤 義和
	16	●市民生活の安全に役立つ防犯カメラについて、幸区内の状況はどの様になっているのか。増設はできるのか、提案したい。	●最近防犯カメラのシールが貼られているが、あまり周知されていない様なので、広報と増設についての検討をしていきたいと思う。	まつい せつこ 松井 節子
	17	●通学路整備による児童歩行上の安全性向上と犯罪の防止	●委員の実査および小学校教員、PTA、学童との意見交換による問題点の把握 ●外灯の整備、防犯カメラ・非常発信機の設置等 ●防犯上死角となる障害物、植栽の除去、その他	ささき しげる 佐々木 繁
	18	●歩道に設置された東京電力の配電盤など、至る所に落書きされている。	●落書き消しを地域の行事として定期的に行うことで「安心」「安全」なまちづくりに役立てる。 ●整理整頓、清掃するという行為は、防犯にもつながることから、落書き消しについて、警察署も積極的に協力してくれるとのこと。	おしやま かねつぐ 押山 兼二
地域 防災活動の 推進	19	●自助に力を入れた防災対策	●広報誌で『防災に備えよう』コーナーを設け、役に立つ情報・豆知識などを実際の震災(災害)体験から、これは使えるという事を紹介する。	こんどう たえ 近藤 多恵
	20	●まず自分の身は、自分で守る。最低一週間位の水などの蓄えの推進。		にし の きょういち 西野 恭一
	21	●3.11の東日本大震災で、防災意識が高まっているのに、住民に地域避難所の運営等、内容や自主防災組織についての情報が周知されていない。	●自主防災組織の活動状況調査、育成 ●地域避難所の運営 ●防災器具や備蓄の状況調査 ●学校、生徒との連携 ●災害時、災害後の情報発信について	むらた せいこ 村田 清子
	22	●新築マンションは耐震性のあるものに。一般家屋の耐震性では倒壊の恐れあり。	●地震への対応を心がまえし、命を大事にする啓蒙 ●高層マンションの耐震性能の診断の促進	いじま ただお 飯島 忠男
23	●比較的狭い道路においては災害時(特に大地震発生時)にブロック塀や自動販売機等の倒壊、自宅前の駐車車両の移動等により道路が閉鎖されて避難が困難になる恐れがある。	●狭い道路に面した駐車車両の移動防止(駐車時の車輪止め・チェーン等による移動防止) ●狭い道路に設置された自動販売機等の転倒措置の強化 ●道路上の電線路の強化(電空倒壊防止、電線の断線防止、変圧器・開閉機類の落下防止等) ●ブロック塀の倒壊防止措置(無鉄筋塀の撤去)	ささき しげる 佐々木 繁	
高齢者・ 障害者の 暮らしやすい 街の実現	24	●「システムの構築」として、地域力の強化は不可欠であり、そのためには最前線の町内会・自治会の加入率の向上と人材の発掘・育成が肝要 ●一方で行政と地域の連携の核となる地域包括支援センターの存在感・スキルアップも重要な課題 ●双方の観点に立って、実践的なアプローチによる解決策立案のための突っ込んだ調査・分析の実施	① 関係組織へのアンケート・ヒアリングの実施 ●地域包括支援センターの職員の生の声、民生委員、町内会、老人クラブなども ●「個人情報保護法」の制約問題も・・・ ② 他地域も含め成功事例の収集とノウハウの習得 ●町内会・自治会の会員獲得と人材発掘・育成の具体的な成功事例の収集・分析 ●地域での協働による成功実践例も。 ③ モデル地区を設け、成功事例づくりにチャレンジ ●地域、行政、地域包括支援センターの三者協働で特定地域でのケアシステムのモデル策定と実践。	なりかわ しんいち 成川 慎一
	25	●老人、子どもを含め、地域で見守る体制の充実、年々変わる情勢に合わせて、考え方を考えていく必要性。		にし の きょういち 西野 恭一
	26	●風の強い日など、ビル風対応へのボランティア活動の推進	●行政、福祉関係への協力要請	さとう れいぞう 佐藤 例蔵

番号	地域の課題として、解決に向けて協議したい事項			地域の課題を解決するためのアイデアや 他の地域で既に取り組んでいる事例	委員名
	分類	項目	内容		
27	高齢者・障害者の暮らしやすい街の実現	さらに安全・安心なま ちを目指して	●サギ・ひったくり・空き巣・交通事故・震災・高齢者増・老々 介護・震災時避難等々、地域での心配事は尽きません。さ らなる防止策は不可欠と考えます。	●情報徹底の為に町内会・自治会への加入促進 ●高齢者一人暮らし、老々介護者のマップづくり ●緊急避難所の早急な構築	おの すくる 小野 偉
28		高齢者が安心して住 めるまちづくり	●川崎市の中でも幸区は、高齢化が進んでいる。特に独居 高齢者や高齢者夫婦の世帯などの生活、福祉、医療、介護 などが充実しているのだろうか。あるいは、それらの情報が 周知されているのだろうか。あるいは、十分に利用されてい るのだろうか。	●区内でどのような設備、制度、組織があるかを調べ、分 かりやすくまとめる。 ●困ったときの窓口はどこか、広報を行う。 ●各団体間が、連携を取り合っているか、あるいは、どの ような取り組みをしているかを調べる。	あおき はるひこ 青木 晴彦
29		住民参加による 孤立・孤独死の防止	●世帯構造の変化や人間関係の希薄化の中で、高齢者の 孤立や孤独死が社会問題になっています。孤立死を防止す るには、近隣住民、集合住宅管理者、民生委員、児童 委員、社会福祉協議会、地域包括支援センター、 ライフライン事業者等の関係団体の情報共有や コミュニケーションの緊密化が必要になるでしょう。	●第4期の「みんなで見守りたい」の提言をベースにした 取組を行う。	ならばやし てるえ 榎林 照江
30	地域コミュニティの 連携強化	●最近地区内の団体等の参加する人が減少している。特 に役員のみならず各団体の高齢化が進み、組織活動 の活力が失われてきている。	●地域とのつながりを取り戻し、コミュニティの再生を目指 し地域のイベントの活性化を促進するため、町内会、 自治会、PTA等の団体と共同で世代間の交流を進め る。	かみや おさむ 神谷 修	
31		●第4期の「みんなで見守りたい」は、主に高齢者を対象とし た取組みなので、次に地域住民全体で見守りあえる関係 を考えたい。	●人材育成。特に団塊の世代が地域で活動できる仕組み は幅広い世代が集まれる居場所(いこいの家、子ども文化 センター等の利用方法)	むらた せいこ 村田 清子	
32		●共同住宅において、朝夕通路で会っても挨拶しない人が おおい大勢いる。	●町内会、自治会などで、おしゃべり会を月一回設ける	さとう れいぞう 佐藤 例蔵	
33	地域活動での世代間 格差の解消	●地域活動等での世代間格差を感じる。何事も従前通り行 いたい年齢の方、時代が変化し同じ事を従前通り行ってい たのではと考える世代とのギャップを感じる。町内会等の 役員は大変高齢で大先輩であるが、現在の親が持つ感覚 が理解できないのか、何事も従前通りが目立つ。	●直接これと言ってしまうと喧嘩になるので、如何に時代 が変化して、激変消滅と言うような時代の中で生活し、 子どもたちも、親も娯楽や楽しみが多種多様な価値観の 中で生まれ、物の無い時代には楽しかったことが楽しく ないと感じる。それぞれの地域で話し合える機会やきつ かけを作る場の提供。	あべ のりひろ 阿部 法弘	
34	団塊世代の地域 活動への参加促進	●リタイアをする時期に、地域への帰属意識を持って頂けた ら活性化につながるのでは…と。 ●福祉に関しても今後、地域包括ケアに向かっています。 アイデアや新しい活動の提案をしていかなければなりません ので、今まで経済社会に身を置いていた方々の経験も必要 と考えています。		はら きよこ 原 紀代子	
35	地域におけるエコ活動の 推進	●町内会・自治会等の資源回収は、数値化して報告されてい るが、家庭ゴミはその仕組みが無い。ゴミの排出量を見え る化(数値化)すれば、各家庭でも目標を持って減量・ リサイクル化が進むと考えられる。	●家庭ゴミの種類や容量を元に数値化出来る仕組みを 調査研究する。	いとう よしみち 伊藤 善通	
36		●ワンランクUPの資源ゴミの出し方でゴミの減量につなげる。	●分別は定着してきていると思うので、次は減量につな がるアイデアを考えていきたい。 ●今回委員さんの中にCCさいわいの方がいらっしやるの で何か参考になることが聞けるのではないのでしょうか…。	こんどう たえ 近藤 多恵	
37		●第3期で課題として挙げて、かなり浸透していると思うが、今 少し、押し進める内容がある。 ●個人宅では、分別も進んでいるが、アパート、小世帯 マンション、単身者では、考えが少し違うと思う。 プラスチックの収集をリサイクルマークの無いものでも集め る、包装容器も多少汚れていても集めるなど、行政に働き かける。		にし のぶいち 西野 恭一	

分類	地域の課題として、解決に向けて協議したい事項		地域の課題を解決するためのアイデアや他の地域で既に取り組んでいる事例	委員名
	項目	内容		
38	地域におけるエコ活動の推進	● 温暖化防止等地球環境保全が問題視されています。 ● 省エネ、資源活用、緑化促進は重要。また、たばこポイ捨て、粗大ごみ放置等身近な環境改善も大事な課題と考えます。	● エコライフ／環境家計簿の奨励 ● 空き公地を活用した植樹緑化／喫煙エリアの設置 ● 余った物の有効活用(リユースシステム／マーケット) ● 加瀬山／緑道の保全	小野 偉
39	青少年の健全育成等	● 最近の子ども達は自己中心的であったり、自分の気持ちを発見できないように思います。思いやり、優しさ、協調性、自立性が無い為に、いじめや暴力などが多発しています。	● 幸区の子ども会は色々な体験(生活、社会、自然)などを通して、仲間関係や人と人との繋がりの中で、豊かな心が育まれていくように活動しています。 ● 川崎市の子ども会では、育成者の方々に、子ども達が「じめや暴力を防ぐことができるよう、基本的な人権「安心」「自信」「自由」を守り、支援する為の研修会を行いました。 ● 子ども達が安心して、自由に発言出来る場、環境づくりとして、地域でも子ども達と楽しく接する機会を沢山もち、親睦を深める事も、純粋な子ども達の気持ちを再発見する事ができ、今後、子ども達が安心して気軽に私たち(大人)に相談できるのではないのでしょうか。	藤井 照美
40	思いやりのある心豊かな人づくり、まちづくり	● いじめ、批判、虚偽、隠ぺいなど、道に外れた行為が多く感じます。弱者をいたわる心、素直に感謝する心を持ちたい。永遠のテーマ。まず一歩から。	● 地域のゴミ拾いボランティア活動の定期化 ● 介護施設等への見学・慰問・体験実習 ● 専門講師による講演(学校／町内会／自治会／区民集客)	小野 偉
41	地域の魅力発信	● 幸区には、「夢見ヶ崎動物公園」「多摩川・矢上川」「東芝科学館」「ラゾーナ川崎プラザ」「ミューザ川崎シンフォニーホール」などの魅力スポットがある。情報発信をきめ細かく提供するとともに、回遊ルートを整備するなど、来街者を増やす努力を進める。	● 施設の整備、回遊ルートの安全安心性の確保、ルート上の休憩スペース、おしゃれなカフェ・レストランの誘致などを積極的に実施して、来街者を誘致するために、観光協会・商店街など関係機関と連携する。	かみや おさむ 神谷 修
42	地域の魅力発信	● 幸区の資源として、多摩川の堤防グラウンド、比較的大きな地区公園、科学技術の商業施設、地域の特色を生かした商店街や町内会の各種行事等がある。それらを活用して人集めの企画を発信する事により、まちの活性化に繋げる	● 幸区の特徴を生かした各種資源を発掘し、それらを生かせられないか調査研究し、利用しやすい状況で発信する。 ● 幸区内で利用できる共通商品券を発行し、割引価格で販売したり、各種行事の景品に使用したりして、商店街の活性化に繋げる。	いとう よしみち 伊藤 善通
43	交通アクセスの向上	● 川崎駅に行くバスは多数あるが、区の中を移動する場合には利用しづらい。	● 市バスを増やしてくれれば…。	たかはし のぞみ 高橋 希